クラス番号	606	担当教員名	木全　和巳
テーマ	〈しょうがい〉のある子ども・おとなたちとソーシャルワーク実践 ーー 安心して豊かに暮らせる地域と社会をつくるために　ーー		
著書･論文 研究課題等	【単著】『児童福祉施設で生活する〈しょうがい〉のある子どもたち〈性〉教育支援実践の課題』福村出版(2010)／『安心して豊かに暮らせる地域をつくる』全国障害者問題研究会出版部(2008)／『わたくしたちはソーシャルワーカーです』萌文社(2007) 【研究課題】　1．障害者総合支援法などの〈しょうがい〉児者福祉施策に関する研究 2．〈しょうがい〉のある人たちへの地域生活支援実践に関する研究 3．〈しょうがい〉のある人へのセクシュアリティの援助実践に関する研究		

ゼミナール概要

キーワード：〈しょうがい〉／社会福祉実践／地域生活支援／発達保障／セクシュアリティ支援／

目的：〈しょうがい〉とは何かを考えながら、〈しょうがい〉と〈しょうがい〉のある人、家族、地域の人々と、生活の困難をともに解決をしていく専門職の役割を学び、考え、こうした専門職になるため知識や技術といったちからをともにつけていきましょう。

授業計画（内容、方法等）：

３年次は、ゼミ生一人ひとりの深めたてみたい「こだわり」を確認していくこと、当事者・家族・支援者の人たちをゼミに呼んだり、実際に現場に出かけて話を聴いたりしながら、学生のみなさんが興味関心をもっているテーマを深めていくことをみんなでしていきます。夏休み以降の実習に向けても、ゼミの研究課題と結びつけてのアドバイスもできればと思います。

秋以降は、実習のふりかえりと共に、さらに自分のテーマを明確にしながら、改めて当事者・家族・支援者の人たちに話を聞きに行くことや、実際にフィールドに出ながらの資料収集などもしていく支援をしていきます。春休みには、１泊２日で、滋賀県のびわこ学園と大津市の生活支援センターや京都のらく相談室に見学を兼ねて行きます。同時期に、卒業論文の第１回の中間報告会をする予定です。

４年次は、個々の興味関心を大切にしながら、卒業論文作成に向けて、支援をします。児童養護施設で暮らす〈しょうがい〉のある子どもなど、対象も子ども、おとな、家族、支援者など、〈しょうがい〉の種別もどんな〈しょうがい〉でも大丈夫です。理論研究、実践研究、歴史研究など、自分がやってみたい方法で挑戦してみてください。できれば、現場に出向いて本人家族支援者に聴き取りをいていくような実践的な調査研究をお勧めします。

〈しょうがい〉児者家族の相談支援事業の現場に通いながら、ケース検討の場などにも参加していただき、地域生活支援の実際にも参加しながら考える実習にできるだけ参加してください。「ソーシャルワーク専門実習指導」といいます。この実習は、ゼミとは別に単位が出る実習です。フィールドは、圏域のアドバイザーをしている知多圏域や名古屋市、岡崎市、春日井市などを考えています。９月には、卒業論文の第２回の中間報告会をこれも２日間ぐらいかけて行う予定です。秋以降は、卒業論文を書き上げるための支援をします。

＊全国障害者問題研究会の学生セミナーの実行委員も募集中です。京都までの交通費は出ます。

＊金曜日の６限に近藤直子先生と伊藤修毅先生と全国障害者問題研究会学生サークルをしています。

担当教員からのメッセージ

1．卒論を書くこと、2．希望する進路を実現させること、3．卒業後も相談できる友だちをみつけること

〈しょうがい〉に関することに興味関心があれば大丈夫です。通園施設や児童ディサービスなど保育士の資格をとりながら、特別支援の教育に関心のある方、そして、通所や入所の施設に関心のある方、地域生活支援に関心のある方、映画の中、小説や絵本の中の〈しょうがい〉のある人たちに関心のある方、自分のこだわりを大切にしてください。

現場で当事者・家族・支援者が困っていることをいっしょに解決したい。人間らしいねがいをともに実現させていきたい。貧困と格差の問題が解決を求められている現代社会の大きな課題となっています。こうした課題を〈しょうがい〉のある人たちの生活と重ね合わせながら、自分たちの問題として、ともに学び、考えていきたいと思います。

この間、対象は、乳幼児から学童期、青年、成人期まで、場所も、通所の施設から居宅事業、相談支援事業、市町村の福祉計画づくりまで、関わってきました。みなさんの興味関心に応えながら、こうしたフィールドに実際に参加しながら、現場でいま困っているたくさんの課題を受けとめて、ソーシャルワークの視点から、どうしてこうなったのか、どうしたら解決できるのかをいっしょに考えていきたいと思います。

〈しょうがい〉に関することであれば、歴史研究、事例研究、教育研究など対応できると思います。自分のこだわりとやりたいことを大切にしてください。